

資料室だより 116

旧約聖書理解のために

ミルトスというヘブライ文化研究所が刊行している「ヘブライ語聖書対訳シリーズ」のなかの「詩編、I~III」(詩編全編収録)を購入しました。ミルトスはイスラエル・ユダヤ文化を研究紹介している貴重な機関です。ご存知のように旧約聖書はヘブライ語で書かれています。セム語族に属するヘブライ語はアラビア語と同じく左から右に書かれます。私たちにとっては困難な言語ですが、典礼の言葉はほとんどが旧約聖書の詩編からとられていることを思えば、勉強してもしてもしすぎるということがないくらい、あらゆる角度から勉強すべきでしょう。グレゴリオ聖歌をはじめラテン語典礼で使われるラテン語訳詩編つまりヴルガータ訳はヘブライ語原典との齟齬が若干生じます。私たちが新共同訳聖書で見る日本語訳はヘブライ語から直接訳されているために、その齟齬をお感じになっておられる方もいるでしょう。

今回購入した詩編は・ヘブライ語の原綴り、・読み方(カタカナ表記)、・日本語逐語訳、・文法上の構成、・日本語訳、を示しています。ヘブライ語が読めなくてもヘブライ語の聖書に親しめるように、原典の意味を逐語的に理解することができます。さらに文末脚注は大変貴重な情報を与えてくれるので、詩編の勉強に深みと広がりを持たせてくれます。

よく耳にする「アドナイ」という言葉(主、と訳されます)はどのような綴りだったのか、ハレルヤという文字はどのような形状なのか、ここで知ることができます。

もう1冊は「旧約聖書神学用語辞典—響き合う信仰」(W. ブルッゲマン著、日本キリスト教団出版局)です。神学用語辞典といっても「三位一体」とか「実体変化」といった神学的な用語が並んでいるわけではありません。たとえば、「愛」、「金」、「希望」、「苦しみ」、「嘆き」といった項目があります。時代的にもメンタリティーも遠く異なる民族が培った文化—旧約聖書の世界を知るためにはこういった普通の言葉の概念から検証することも必要になります。

もう1冊、これは購入したのではなくすでにある蔵書ですが「カラー版 聖書植物図鑑」(大槻虎男、教文館)という本が2階においてあります。旧約聖書にはたくさんの植物がでてきます。ナツメヤシ、ヒソプ、ニガヨモギなど。これらがカラーで図解されています。聖書のなかのどういう脈絡でこれらの植物が登場したのか調べてみるのも旧約聖書を読む良い助けになります。

上石神井のイエズス会の広大な敷地の一角(無原罪聖母修道院の中)に「クルーゼの森」と呼ばれる森があります。これはイエズス会のクルーゼ神父様が神学生の勉強のために聖書中に登場するすべての樹木と植物を植えて作られた森です。

(杉本ゆり 記)